国際シンポジウム
「個人・家族・国家のゆくえ――文化人類学と人口学からの学際的アプローチ」
今日のサブサハラ・アフリカ地域における個人と家族、国家が直面する課題を、国際人口移動や保健医療、ジェンダー、家族などのテーマから検討します。フランス国立パリ・デカルト大学の人口開発研究所と連携し、日仏の研究者と援助機関を交えた社会に向けた理論的考察を目指します。
日時　3月1日（土）10時～17時30分
　　3月2日（日）9時～16時30分
会場　本館第4セミナー室
※要事前申込、参加無料
　日本語・フランス語【同時通訳あり】
お申し込み・お問い合わせ先
三島研究室　mishima@idc.minpaku.ac.jp

人間文化研究機構第23回公開講演会・シンポジウム
「高齢期のウェルビーイングと多様な住まい方」
高齢期のウェルビーイングに配慮した多様な住空間構想が、すべての人にとって住み心地のよい、地域文化を活かしたコミュニティを育てゆく可能性と道筋について考えます。
日時　3月8日（土）13時～17時20分
会場　イイノホール
　（東京都千代田区内幸町2－1－1）
※要事前申込、参加無料、手話通訳あり

公開講演会
「働き者と、ナマケモノ!?――『はたらきかた』文化論」
働き者はどこにいるのでしょうか。高度福祉国家フィンランドにおける事例、成果の不確実性がつねに大きいカツオ釣り漁業者の事例などから、「はたらきかた」を文化としてとりあげます。
日時　3月20日（木）18時30分～20時45分
会場　オーバルホール
　（大阪市北区梅田3－4－5　毎日新聞社ビルB1）

展示場新構築のお知らせ
朝鮮半島の文化・中国地域の文化・日本の文化「沖縄のくらし・多みんぞくニホン」の展示場が3月20日にオープン！

国際シンポジウム
「ペルー南海岸における社会の実態と変容（Desarrollo y Cambio Social de las Sociedades Prehispánicas en la Costa Sur del Perú）」
ナスカおよびパルパ地区を中心に現地調査を実施しているアンデス考古学者が集まり、この地域に成立した諸社会（パラカス、ナスカ、イカなど）の実態とその動態に関する知見を深めるとともに、共有します。
日時　2月16日（日）10時～17時30分
会場　本館第4セミナー室
※申込不要、参加無料、スペイン語【通訳なし】
お問い合わせ先
関研究室　sekiken@idc.minpaku.ac.jp

みんぱくゼミナール

会場　国立民族学博物館 講堂
時間　13時30分～15時（13時開場）
定員　450名（当日先着順）
参加費　無料（展示をご覧になる方は、2月20日（木）以降は観覧料が必要です）

ベトナム、イエンバイ省ギアロにある黒タイの村で

第429回　2月15日（土）
ベトナムの黒タイのうた、おはなし
講師　樫永 真佐夫（国立民族学博物館 准教授）
山がちなベトナム西北地方には、たくさんの民族が高度に応じてすみわけています。盆地ではそのうち黒タイという人びとが、水田をひらいてくらしています。かれらが村で伝えてきた歌やお話を紹介し、かれらが自分たちのくらしをどのようにイメージしているのか、村の現状にふれながらお話しします。

大理白族自治州のイ族（1990年撮影）

第430回　3月15日（土）
装いのセンスと伝承――中国のフィールドから
講師　横山廣子（国立民族学博物館 准教授）
中国雲南省では、さまざまな民族衣装を目にします。日常的に着る人びとは減少していますが、民族衣装は大切にされています。変化しつつ伝承され、洗練されてきた装いのセンスが、色合い、形、装飾、そして何より着方にあらわれます。それを紹介し、伝承がどのようにおこなわれるのかも考えてみます。

友の会

国立民族学博物館友の会　電話 06-6877-8893（平日9時～17時）　FAX 06-6878-3716
http://www.senri-f.or.jp/　　e-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会講演会（大阪）
会場　国立民族学博物館 第5セミナー室
定員　96名（当日先着順、会員証提示）

第429回　3月1日（土）14時～15時
梅棹忠夫のモンゴル調査をたどる
講師　小長谷有紀（国立民族学博物館 教授）
梅棹忠夫の民族学研究にとってモンゴル研究は格別な意味をもっています。現在、民博では残されたスケッチやフィールドノート、カードなどを整理し、梅棹アーカイブズとして公開する作業を進めています。私はこの作業の一環として2013年秋に張家口や渾善達克（ぐんしゃんだく）砂丘、蘇尼特（すにと）など梅棹ルートを走破しました。梅棹の克明な記録の数々を整理する楽しさ、そして梅棹ルートを実際に回った旅の途上での出来事などをお話しします。
今年の秋には、スケッチやノートを手に、友の会のみなさんとともに再度、内モンゴルを訪ねようと思っています。ぜひご一緒しましょう！（旅の詳細は「友の会」までお尋ねください）

第430回　4月5日（土）14時～15時
【新 中国地域の文化展示関連】
中国最多の少数民族、チワン（壮）族の現在
講師　塚田誠之（国立民族学博物館 教授）

東京講演会
会場　国立新美術館研修室A・B
定員　60名（要事前申込）

第108回　3月9日（日）13時半～14時15分
国立新美術館での「イメージの力」展開催にあたって
講師　須藤健一（国立民族学博物館 館長）
「イメージの力」展は本館所蔵の34万点の標本資料から「美的基準」にもとづいて600点を選りだしました。美術館の展示はアート、民族学博物館のものは民族資料と言われてきました。今回は民博コレクションを国立新美術館で披露する試みです。みなさん、世界各地の住人が創りだした多種多様な造形物のなかに「美しさ」や「アート」を発見する楽しみを味わってください。本講演は、「美の普遍性」に思いをめぐらすことにします。
※講演会終了後に、国立新美術館研究員による展示概要の解説（30分）もおこないます。

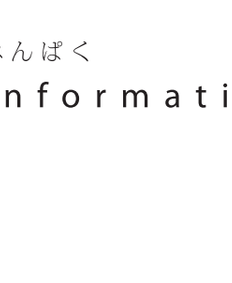
国立民族学博物館ミュージアム・ショップ
電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休
ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
「World Wide Bazaar」
http://www.senri-f.or.jp/shop/

世界のことばで「ありがとう」。
オリジナル商品の「ありがとうスタンプ」に新しいことばが登場し、第一弾のマダガスカル語とあわせて全8種類となりました。
今回のデザインは、武庫川女子大学の生活環境学部情報メディア学科の学生さんによるもの。若い人たちの感性を商品に活かしたいという私たちの思いと、「アイデア」から「商品化」への実際の道のりを学生たちに学ばせたいという肥後有紀子先生の思いが重なって、今回のコラボレーションが実現しました。
世界のことばで「ありがとう」はどのように言うのか、どのような文字で書かれるのか、楽しみながら学びましょう。今後もインドネシア語など、続々登場の予定です。

ありがとうスタンプ　各420円
※括弧内は各文字の読み方を表します。
価格はすべて税込

国立民族学博物館創設40周年記念
日本文化人類学会50周年記念
「イメージの力――国立民族学博物館コレクションにざわる」
迫りくる力、驚きとの出会い、このアートを体験しよう
会期　2月19日（水）～6月9日（月）
会場　国立新美術館 企画展示室2E（東京）

※各イベントについてくわしくはホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時から17時（土日祝を除く）です。


カツオの一本釣り

みんぱく映画会／みんぱくワールドシネマ
「人生はビギナーズ」
75歳にして同性愛者だとカミングアウトし、余生短い人生を思うままに生きる父と、自分自身に自信が持てない息子との交流を描いた作品を通して、これまでの家族形態における同性愛者の存在と人間関係、これからの新しい家族の在り方を皆さんとともに考えていきたいと思います。
日時　3月16日（日）13時30分～16時30分（開場13時）
会場　本館講堂（定員450名）
※申込不要、参加無料
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布

みんぱくミュージアムパートナーズ
「点字体験ワークショップ」
日時　2月8日（土）12時～15時30分
　　3月8日（土）12時～15時30分
会場　本館エントランスホール
※当日受付、参加無料

地球おはなし村
「おはなし、おはなし～西アフリカの昔話をかたる～」
日時　2月27日（木）11時15分～11時45分
　　3月16日（日）13時30分～14時
会場　本館エントランスホール
※当日受付、参加無料

■お知らせ
4月から、研究公演、みんぱく映画会、みんぱくワールドシネマにご参加いただく際、当館の観覧券のご提示をお願いすることといたしました。観覧券は、当館観覧券売場または自然文化園各ゲート脇の券売機等にてお買い求めください。
なお、みんぱくフリーパス、国立民族学博物館友の会会員証、キャンパスメンバーズの学生証等をお持ちの方は、ご提示いただくと、観覧券は不要です。

●展示場リニューアル工事のお知らせ
展示場リニューアル工事のため、朝鮮半島の文化・中国地域の文化・日本の文化（沖縄のくらし）が閉鎖されます。
期間　3月19日（水）まで

●展示場一部閉鎖のお知らせ
本館2階展示場の空調設備更新のため2月19日（水）まで、展示場の一部閉鎖をいたします。その間は観覧無料となります（ただし自然文化園（有料区域）を通行される場合は、入園料が必要です）。ご理解とご協力をお願いします。
閉鎖区域
オセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、西アジア、音楽の一部